

# WHAT'S NEW! VOL.03

## メアジの大量死



沖港内に大量に浮かぶメアジ。腐敗のため  
沖村は悪臭に包まれた。(水産センター撮影)

### 十 月中旬に母島沖港でメアジ

の何千匹にもおよぶ大量死が起きました。始めは、一七日午前中に海底に横たわっていたり中層でふらふらしている魚を泳いでいた島民が目撃し、その日の夕方には、数十匹が弱って浜に打ち上げられました。翌一八日、打ち上がった数はしだいに増え、夜のパトロール時には、ははじま丸岸壁付近で一〇〇匹以上が浮く事態に至りました。一九日に小笠原水産センター調査船が入港して、メアジの共同回収作業が行われ三四〇〇匹が集められました。腐敗しているものが多く、港内にはものすごい悪臭が漂いました。二〇日にも作業が続き四〇〇匹が新たに回収されました。

### 小

笠原水産センターの調査によると、死魚はほとんどメアジ1種類で、少なくとも四千〜五千匹が死んだもようです。その原因は病気などではなく酸欠である可能性が最も高いそうです。この異変当時、沖港内は雨による土砂の流れ込み

で海水が濁り、また水温が比較的高温なため水中に溶け込んだ酸素が少ない状態であり、そこに1万匹を超えるメアジの大群が入りこみ、この際、海水中の細かな物質がエラに付いて息がしにくくなりました。狭い所に大群が集まったこともあり、部分的に酸欠の場所ができて次々と死亡した、と考えられるそうです。

過去、このようなことは一九九六年八月九日と一九九九年八月一〇〜一二日にも起こっています。沖港は海水の循環しにくい構造で、今後も再発する可能性が考えられます。



メアジ *Selar crumenophthalmus*

アジ科で30cmほどになります。内地のマアジよりも目が大きく体高がやや高いのが特徴です。小笠原では、漁業対象種としてではなく、一般島民の岸壁や湾内での釣りの対象魚として親しまれています。(水産センター撮影)